



第36号

# さらしなの里

## 友の会だより



2017・春



蜜を集めて巣箱に帰った蜂。おなかには幼虫の餌に花粉団子も



杏の花の蜜を取る蜂



さらしなの里の上方、羽尾5区の果樹畑に置かれた巣箱



満開のアカシアの花

1日10億個の花が受粉交配  
**蜜蜂が飛び交う桃源郷「さらしな」**  
 もしも蜜蜂がいなくなったら、多様性に満ち素晴らしい芳香を放つ花々や果物に囲まれた暮らしは崩壊し、針葉樹やソテツ類などの裸子植物だけの青緑一色のつまらない世界に逆戻りしてしまう。「黒い森」のこれらの植物は、花粉を風によって運ばせて授粉する風媒植物だ。

今から1億4千万年前、花を咲かせ花弁の底に花蜜を蓄える被子植物が発生した。この植物は花の匂いで昆虫を引き付け、蜜と花粉を提供し、その見返りとして授粉を昆虫に頼る仕組みを作り上げた。そして8千万年前、昆虫の中の蜂の仲間の中から、蜜と花粉を集める特殊技能を獲得した蜜蜂が誕生し、花と蜜蜂の共存共栄の関係が始まり現在に至っている。

蜜蜂の花から花へと飛び回る仕事によって、1匹当たり1日500個の花の授粉交配を行う。1箱2万匹の外勤蜂は1日当たり約1千万個の花の授粉交配に貢献する。さらしなの里では何人かの養蜂家が西洋蜜蜂を飼育している。花の季節になると、リンゴや杏の授粉用に、地元の果樹栽培農家がたくさんの蜜蜂群を借用し各地に配置している。よって、この時期になると百箱ちかくの巣箱から飛び交う2百万匹の蜜蜂が、1日当たり約10億個の花の授粉交配に貢献することになる。この小さく勤勉でけなげな昆虫に思いを寄せて欲しい。さらしなの里が花の季節を迎えると、桃源郷に変わり、色とりどりの花が咲き乱れ、とてつもない数の蜜蜂との大スペクタクルを演じる。そして、豊かな実りの季節を迎える。

最近、環境の変化に敏感な在来種の日本蜜蜂が里から姿を消した。中国・四川省の大農園では、すべての授粉昆虫が農薬によって死に絶え、鳥の羽の「授粉棒」を花に叩きつける「人間蜂」が梨畑をうごめいている。ヒマラヤ山脈でも蜂がいなくなり、農夫たちがリンゴの木を切り倒した。メキシコのバナラ農園の農民は、バナラ蘭の花弁を引き裂き、花粉をつま楊枝でかき出して雌しべの柱頭に移している。なんとさびしい光景であろうか。

(羽尾5区 上水清)



# 「美しさらしな」完成！

「さらしな」の地名を地域づくり  
に活用しようと結成された住民団  
体「さらしなルネサンス」が3月、  
さらしなの里ガイド冊子「美しさ  
らしな」を発行しました。千曲市  
との協働事業として昨年春から毎  
月編集会議を開催して制作したも  
ので、「さらしな」の魅力の核心が  
盛り込まれています。

A4版、32ページ、フルカラー。タ  
イトルを「美しさらしな」とした  
のは、日本人が持っている伝統的

な美意識が「さらしな」の地名に  
集約されていることに加え、その  
美意識を裏切らない美しい景観が  
今もさらしなにはあるからです。

さらしなルネサンスは、「美しさ  
らしな」を、さらしなが好きな人  
たちとの一緒に進める地域づくり  
の、合い言葉（キャッチフレーズ）  
にしたいと考えています。

千曲市が昨年、新たに作った観  
光政策のキャッチフレーズも「科  
野・さらしなの里 千曲」です。

# さらしなの魅力の核心ここに

今年4月、そのキャッ  
チフレーズの実体を住  
民団体の協力を得て実  
現するため、「信州千曲  
観光局」という新しい  
組織も発足させました。

さらしなルネサンス  
は、同観光局の理事の  
役割も担っています。

「さらしな」のスーパ  
ーブランド力を明らかに  
したこの冊子は計2万  
部印刷し、市内外に配  
布しています。学校の  
副読本やウォーキング  
などさまざまな場で使  
いたいという声が出て  
います。冊子は、さら  
しなルネサンスのホー  
ムページからもダウン  
ロードできます。

(芝原区・大谷善邦)

## リレイ 里麗エッセー

# 楽しいを探そう！ 羽尾4区 西澤文男

その一

昨年4月、4歳の孫が保育園に  
通うようになりました。毎朝出か  
ける時間になると、決まって「お  
なが痛い」「保育園に行きたくな  
い」等々理由を並べて何とか行か  
ないで済む方法はないか考えて訴  
えました。

保育園は、初めての集団生活で、  
自分の自由にならないので無理も  
ありません。家にいる時は、自分  
中心に好きにやってきたのですか  
ら、それから3カ月が過ぎて、4  
カ月が過ぎても変わりません。

そこで、保育園で楽しいことは  
ないのか聞いてみました。「保育園  
にいる時に、何か楽しいことはな  
いの？」「お友達と遊んでいる時は

楽しくないの？」あまり考えても  
いないのでわかりません。それか  
ら毎朝、保育園に行つて「楽しい  
をさがそう」と毎日見送りました。

そして「今日プールは良かったよ  
」「楽しかったよ」と楽しいをさがす  
ことができました。1年がたち今  
では毎日お友達と楽しく過すこ  
とができています。そしてお友達  
と楽しく遊び、家に帰るとその日  
の出来事を報告してくれて成長し  
ています。

その二

同じ時期に、近所の中学3年生  
が私に「高校って楽しいですか？」  
と聞いてきました。私は「高校つ  
て自分で楽しいをたくさん見つけ  
るところだよ」と答えました。楽  
しいこと、楽しくないことがたく  
さんあるので、自分で楽しいを見  
つけて有意義な学校生活を自分で  
作り、高校生活を楽しんでほしい  
とアドバイスしました。

その後、写真クラブに入ってい  
ますと報告してくれました。その  
時の顔は生き生きとして、目が輝  
いていました。

私も今現在、70歳に手が届くと  
ころまで来ました。長生会から  
声もかかりました。いつの時代も  
老若男女みんな「楽しいを探し  
て！」楽しく生き生きとした毎日  
にしたいと考えております。楽し  
みましょう！



さらしなの里歴史資料館は3月19日(日)、京都造形芸術大学准教授の齋藤亜矢さんによる文化講演会を開きました。演題は「ヒトはなぜ絵を描くのか」。齋藤先生が行ってきたチンパンジーなどの研究成果を基に話していただきました。

「ないものを想像できるか」ヨーロッパには、3万年前から1万数千年前の野牛や馬、鹿などの素晴らしい洞窟壁画が残っています。ヒトと同じ知能を持つ20万年前のホ



さいとう・あやさん 東京藝術大学大学院修了。博士(美術)。京都大学野生動物研究センター特定助教などを経て、2016年から現職。芸術を生み出す心の基盤を明らかにすることで、「人間とはなにか」の理解をめざす。著書に『ヒトはなぜ絵を描くのか』(岩波書店) など。

モ・サピエンスが誕生したころには絵を描きはじめていたことが十分考えられるそうです。彼らと出会うことはできないので、齋藤先生は類人猿のチンパンジーとヒトの子どもの描画比較実験から描くことの基盤を探りました。

そこから見えてきたことは「ない」ものをイメージする「想像力」だそうです。チンパンジーとヒトのDNAは1・2%しか変わらないほど近いのですが、人類は「想像ができる」のに対してチンパンジーにはそれができません。

石器づくりで磨かれた「ない」ものをイメージする力は、完成形をイメージして複雑な行程を経て完成させる石器製作や動物の習性を見抜き、効率的な狩猟を行う技術で磨かれた「イメージする力」が醸成された結果である

ようです。チンパンジーよりヒトは表象を描こうとする欲求が強く、それを描き切ろうと技術を高める過程で発見も生まれ「おもしろくなる」。さらにその先ではイメージが形になり社会的に共有される喜びにつながります。絵は言葉だけでは表現できない難しいイメージが共有できます。

## 「想像、創造っておもしろい」

### ヒトが絵を描く理由テーマに講演会

#### 京都造形大准教授の齋藤亜矢先生を招いて

と齋藤先生は指摘します。石器が誕生したのは330万年も前。さまざまなことを覚えようとする、その理解のなかで言葉を持ち、見立てることができるようになったことが影響を与えていると考えられるそうです。

これは「知識」を文化の中で最も重要として絵にし、生活の知恵をシンボル化している」と理解できるそうです。

ではヒトはなぜ描くのか。齋藤先生は、それは描くことが「おもしろい」からだと言論づけています。チンパンジーも絵のようなものが描けるのですが、その様子を観察していると、絵具の匂いや筆の感触など五感を使った全体での探求が「おもしろい」

講演の最後では、こうした絵を描くことの根源と、20世紀を代表する画家のピカソが「子供の絵」とも評されるような絵を描いたことには関係があることを紹介する貴重なビデオも上映されました。参加者からは「さらしなの絵を描いてみたくなった」といった感想も寄せられました。



(さらしなの里歴史資料館 学芸員・翠川泰弘)



おらほの冠着 34

冠着山は、みんなの里山、姨捨伝説の山、信仰修験者の山、皆さんの心の支えの山、数々あります。一昔前には、薪を取ってご飯を炊き、風呂を沸かし、生活の山でした。  
この山を管理しているのは若宮、羽尾、須坂、上徳間、内川、千本柳財産区です。戦後、先輩方々が植樹した

冠着ヒノキのラウンジでおもてなし

木々が大きく育ちました。今、世間を騒がしているJR東日本の豪華列車「TRAIN SUITE 四季島」が姨捨駅に停車します。そこにラウンジが建設されます。そこで千曲市役所観光課より、内装の一部に財産区の山の「ヒノキ」でカウンターテーブルを作ったかどうかという提案



3月4日に「ラウンジ更級の里」の内覧会がありました。我々財産区で寄贈したカウンターに座り、テーブルを見ると、ヒノキ材の中に杏の木を使用した、姨捨駅舎の窓枠の形である亀のモチーフが埋め込んであります。  
窓越しに棚田、善光寺平の夜景を見ると、またいつ

豪華寝台列車「四季島」が姨捨駅に



がありました。これもやはり冠着山(姨捨山)伝説の影響だと感じました。山から駅へそして皆様に楽しんでいただけるの思いでJR東日本に寄贈することにしました。

もと違った景色に見えます。(ここから満月が見られたらと思いながら...) その後、地元招待客はラウンジからホームへ出ました。ほどなくして四季島の試運転車が入線してきました。まるでホテルがそのまま移動しているようです。大変豪華でした。四季島に乗車されていたお客様がホームからラウンジへ入って行かれました。  
残念ながら、お客様に感想は聞けませんでしたが。今のところ、ラウンジは一般者には入れないようです。  
今、山は寂しがっており、昔を思い出して、山を愛し是非とも我が里の冠着山に登ってください。  
(羽尾5区・小山利雄)

「友の会」文化部長の 塚田克巳さん逝去



さらしなの里友の会文化部長の塚田克巳さんが2月5日逝去されました。塚田さんは縄文まつりの司祭を務め、盛り上げました。まつりで使う放送機材を毎回提供していただき、ありがとうございました。奥様から機材一式をご寄贈いただきました。



この4月より、さらしなの里歴史資料館の館長を務める緑川茂です。私も日々自宅(内川)から冠着山を眺めています。古くは古代体験パークから仰ぎ見る冠着山はまさに雄大な眺めです。当館は「さらしなの里友の会」のご協力をはじめ、地元の皆様と密着した施設であります。本年も何分のご協力をお願いいたします。

編集後記 季節感と話題たっぷり第36号です。さらしなの里の春、蜜蜂の働きで毎日10億個の花が受粉交配とは驚きです。「四季島」の旅人には昼も訪ねてほしいです。友の会だより編集も司ってきた塚田克巳さんのご冥福を心よりお祈りします。

編集・発行

さらしなの里友の会だより編集委員会 (事務局・さらしなの里歴史資料館)

〒389-0812 長野県千曲市羽尾247の1 電話 026(276)7511 fax 026(261)4161